

「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入日 2019年1月

都道府県名	京都府		河川名	鴨川					
事例タイトル	市民参加による鴨川の連続性の改善								
写真									
水系名/河川名	淀川水系/鴨川		場所	京都府京都市					
位置情報 (緯度経度)	35.008611, 135.771667		活動開始年	2011年					
活動概要 (経緯・目的等)	<p>京の川の恵みを活かす会は、鴨川や桂川など淀川流域の自然の恵みを豊かにし、これを活かしていくことに賛同する関係団体・個人で構成された連携組織（ネットワーク）です。カワヨシノボリ、オイカワ、水生昆虫など様々な川の生き物を対象にしていますが、中でも大阪湾から遡上してくる天然アユについては出町柳まで到達できることを目標に、鴨川の落差工に下流から順次仮設魚道を設置し、鴨川への遡上数や生息分布の調査をしています。また、桂川、宇治川、木津川で孵化したアユの流下仔魚調査、カワヨシノボリの産卵床造成や仔稚魚の分布調査、フォーラムや川の恵みの食味会による普及啓発活動などを通じて生き物の豊かな川づくりに貢献しています。</p>								
再生の手法	簡易魚道	○	簡易水制 (巨石・ブワック)	○	バープ工 (上向き水制)	石倉かご・竹蛇籠	○	植生ロール・ポット	
	魚道改良		たまり・わんど造成	○	河床攪乱	○	その他 (記述)		
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○	河川管理者 (国)		河川管理者 (都道府県)		河川管理者 (市町村)	河川管理者以外の地元自治体	○
	大学・研究機関	○	学校 (小中高)		企業		その他 (記述)	漁業協同組合	
工夫した点	<p>1) 魚道の工夫： 重機を使わず市民の手作業でできる魚道的设计・施工計画を工夫しています。京都らしく北山杉を活用する工夫をしています。工事の際に堰堤にボルトを打たずに強度を維持できるよう魚道の固定の仕方を工夫しています。</p> <p>2) 予算確保の工夫： 自主財源なしで事業ができるよう、京都府と京都市の双方に補助金を確保していただいています。さらに京都府が主体となり地域協議会を作り、水産庁の水産多面的機能発揮事業の一環としても事業化しています。</p> <p>3) モニタリング調査の工夫： 魚類の遡上数調査については、漁業協同組合員を中心としたサポーターに5月～7月のカレンダーに担当日を決めていただき、人海戦術でほぼ毎日計数していただいています。魚類の分布調査については、研究者や学生の研究活動のテーマに位置付けていただくことで精度の高いデータを得る工夫をしています。</p>								
今後の課題	<p>1) 魚道の課題： 仮設魚道の設置はあくまで常設魚道設置までの過渡的処置と考えており、魚道の必要性和効果が明らかになった時点で河川管理者が主体的に常設魚道の計画を立てて事業化していただきたいが、未だ実現できていません。</p> <p>2) 予算確保の課題： いずれの補助金についても年限があり恒久的な予算の保証がないため、将来的な財源確保が大きな課題となっています。</p> <p>3) 組織的な課題： アユなどの回遊性動物を環境収容力の上限まで増やすためには、鴨川や桂川の流程だけではなく、淀川下流域はもとより河口や大阪湾沿岸の環境を改善する必要があり、大阪湾沿岸の団体・個人との連携が今後の課題です。</p>								
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<p>【直接的な効果】： 2010年以前は大阪湾から鴨川まで遡上する海産天然アユは三条の落差工で止まっていたが、活かす会の魚道設置によって2016年には出町柳まで遡上が確認されました。</p> <p>【間接的な効果】： 三条のように多くの市民観光客の目につく場所で魚道の存在が知られることで、鴨川に大阪湾から旅してくるアユが遡上していることや、川の環境が生き物のためにも改善されるべきことを周知する効果があります。賀茂川漁業協同組合、京淀川漁業協同組合、保津川漁業協同組合の3漁協において、放流アユ一辺倒から天然遡上アユを対象とした漁業への転換を果たす効果があります。京都府水産課で内水面漁業の振興に向けた事業を創出展開する機会を増やす効果があります。修士過程や博士課程の研究によって、論文として知見が蓄積されるとともに、自然の恵みを豊かにし活かしていく志を持った人材が育成される効果があります。</p>								
関連URL等	http://ikasukai.web.fc2.com/index.html								